

独立行政法人日本スポーツ振興センター契約監視委員会議事概要

開催日及び場所	平成27年4月27日（月） 独立行政法人日本スポーツ振興センター 特別会議室	
委員	委員長 清水 幹裕（弁護士） 委員 青山 伸一（公認会計士） 委員 野川 春夫（監事）	
審議対象期間	平成26年12月1日～平成27年3月31日	
審議案件（合計）	25件	（備考） 契約案件139件から25件を抽出し、審議を行った。 抽出案件について説明を行い、各委員の質問等への回答を行った。
物品・役務等（小計）	22件	
競争性のない随意契約	1件	
一者応札・一者応募	18件	
複数者応札	3件	
工事（小計）	3件	
競争性のない随意契約	1件	
一者応札・一者応募	1件	
複数者応札	1件	
委員からの意見・質問、それに対する回答等	意見・質問	回 答
	別添のとおり	別添のとおり

委員からの意見・質問、それに対する回答

意見・質問	回答
<p>一者応札・一者応募（物品・役務等）</p> <ul style="list-style-type: none"> 物品購入で品目数の多い契約やシステム関連の契約で一者応札となっている契約については、分離発注の可能性を検討できないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 品目数の多い契約において分離発注すると、各契約が少額随意契約に該当することとなる場合もあり、その点についても検討が必要である。また、システム関連の契約については、分離発注した場合の責任の所在等も問題となる。これらの点に留意した上で、分離発注の可能性について検討する。
<p>一者応札・一者応募（工事、物品・役務等）</p> <ul style="list-style-type: none"> 一者応札となった原因についての調査は行っているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 応札しなかった者に理由を確認するなど原因の調査を実施し、改善に取り組んでいるところであるが、様々な要因があると考えられる。事前の発注見通し等、情報提供の充実や、仕様書の作成時に複数者からヒアリングを行い仕様内容に反映する、競争参加資格の等級の設定を拡大するなど、複数者が応札できるよう検討する。
審議結果	
<ul style="list-style-type: none"> 分離発注の可能性について検討すること。 システム・設備の保守等、一般競争に付しても特定の業者に限られている契約については、契約の性質又は目的が競争を許さない場合や競争に付することが法人にとって不利と認められるかどうかを十分に検討の上（独立行政法人日本スポーツ振興センター会計規則第18条第4項参照）、随意契約に移行できないか検討すること。 一者応札となっている契約については、特に新規の応札者の参入障壁とならぬよう、情報開示が充実しているかや仕様内容が過度に限定的となっていないかについて検討すること。 	